

一般質問

・受援力の更なる強化について  
 ・今後のシティプロモーションの推進について  
 ・第3次御前崎市総合計画策定について



齋藤佳子

問

受援力の更なる強化については

が中心となり取り組んでいます。令和4年9月に開催した「ワールド・サーフ・リーグ（WSL）」

答

外部から多様な支援を受けることを想定した体制づく

では、国内外に御前崎でのサーフインの魅力を発信することができました。海洋スポーツのできる「海」を最大限に活かしたシティ

りとしては、国や県をはじめ、自衛隊、警察、消防、災害時応援協定に基づく各種団体との協議や連携した訓練を積極的に実施しています。地域での受援力強化では、社会福祉協議会において災害ボランティアコーディネーターの養成に努めており、述べ45名が登録されています。

問

第3次御前崎市総合計画策定については

答

総合計画は、本市の最上位計画として位置づけ、市における総合的かつ長期的な行政運営を図るための計画です。総合計

問

今後のシティプロモーションの推進については

多くの市民が参画し、あらゆる世代から広く意見を募るべきものであると考えます。令和5年度は、第3次御前崎市総合計画策定の準備年度とし、市民が市政の現状を学ぶとともに、御前崎の将来について広く意見交換できる方法を検討していきます。

答

シビックプライドの醸成については、「御前崎市市民協働の指針」の策定を進めており、今後、協働の考え方や手法を広め、市民がさまざまな場面で、多くの協働の取り組みを積み重ねていくことが、シビックプライドの醸成につながると考えています。シティセールス活動については、体験型ツアーを観光プロデューサー

一般質問

・脱炭素社会のため御前崎市でやれることについて



二俣秀明

問

令和4年度の施政方針で「2050年カーボンニュートラルの実現に向けて新エネルギー機器の導入に対する助成

答

を活用できる枠組みを創設し、地球温暖化防止を推進する」とあります。農林水産分野で市内の取組み事例などカーボンニュートラルの実現に向けた市長の考えを伺う

問

農林水産分野でのカーボンニュートラルの市内の取組みは、茶園へのバイオ炭の投入やバイオマス発電燃料用の早生桐栽培の実証試験、ドローンによる農薬散布、茶園への施肥量軽減などです。水産分野では、NPO法人、榛南地域磯焼け対策推進協議会によるブルーカーボン事業、マダイやヒラメの栽培や放流などが行われ、現在、国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、県でも計画策定を進めています。

答

バイオマス発電所レノバが稼働されますが、海外からの燃料と聞いています。市内には

問

耕作放棄された茶園があり、お茶の木を利用できないか

答

燃料となる木質ペレットは海外からの輸入ですが、事業者は県内の間伐材を木質チップとして使用することも想定しています。お茶の木が木質チップとして燃料になるかわかりませんが、条件が合えば産廃ではなく、有価物として受け入れることも可能と聞いています。

問

早生桐は5年〜8年で成木化するため、ルールが必要では

答

早生桐は、バイオマス燃料や家具の建材加工の活用を目的に実証栽培を行っています。国は肥培管理できるなら農地利用が可能とし、農業委員会では解除付き利用権として承認し、事業者には毎年生育と栽培状況を義務報告してもらいます。実証栽培のためルール作りは難しいですが、農業委員会への明確な説明が必要だと考えます。

問

バイオマス発電所レノバが稼働されますが、海外からの燃料と聞いています。市内には